文京学院大学人間学部研究紀要 Vol. 23, pp. 105 ～ 117, 2022. 3

里親によるピアサポートの効果と課題
―「埼玉里母の会」の取り組みから―

森　和子*

わが国の社会的養護において，その多くを占めていた施設養護から家庭養護に向けて大きく転換するようになってきた．その一方家庭養護の大きな柱である里親養育に対しての支援の不足は現場からも，また多くの研究からも指摘されている．そこで，里親が自ら支援に寄与する団体として「埼玉里母の会」を立ち上げて活動してきた効果と今後の課題をピアサポートの視点から明らかにすることを目的としている．

「埼玉里母の会」の活動の効果として，(1）情報的サポートによる情報交換と提供の場としての活動，(2）感情的サポートによる心に寄りそった支援，(3）里親当事者の必要な支援の発展的成果の 3 点が見いだされた．また．「埼玉里母の会」の活動では情報的サポートをすることによって感情的なサポートも伴って見受けられ，それらによってエンパワメントの相乗効果が得られていた．ピアサポートの場にはエンパワメント効果があることは指摘されている．

また里母らの発言から「埼玉里母の会」が抱える課題として，里親支援の質の向上の必要性が語られた．具体的には（1）専門家との連携の仕組みづくり（2）里子の生涯にわたるサービスの改善が求められていることである．次世代の里親養育の向上に向けて，里母らにとって長年思い続けてきた願いであった．

Key words：里母，ピアサポート，感情的サポート，情報的サポート

はじめに　わが国での里親支援の現状

わが国では貧困や虐待，死別などで親と暮らせない子どもを社会的養護という公的責任で保護・養育する仕組みがある．乳児院や児童養護施設などの施設養護または里親などの家庭養護で育ち原則 18 歳を迎えると自立することになっている．2017 年に「新しい社会的養育ビジョン」が発表され，子どもが権利の主体であることを明確にし，家庭への養育支援から代替養育までの社会的養育の充実とともに，家庭養育優先の理念を規定し，実親による養育が困難であれば，特別養子縁組による永続的解決（パーマネンシ―保障）や里親による養育を推進することを明確にした（厚労省 2017 年 8 月 2 日）．家庭養護の重要性が認識され，里親等委託率を上げ里親委託推進が目指されているが，里親及びファミリーホームへの委託率は全国平均 20.5％（2018 年度）にとどまっているのが現状である．また里親委託率は自治体によっても差があり，里親委託の数値があがっていくことを目指しているが里親養育支援体制をしっかり作り上げなければ，里親委託が解除されるなどの事態が頻繁に起こることが予想され，制度自体の維持が難しくなることが危惧（野口・高橋，2019）されている．虐待や貧困などにより児童養護施設や里親家庭で育った若者は，施設などを離れた後

＊人間学部人間福祉学科

どのような状況にあるのか，初の全国実態調査の結果が厚生労働省から公表された．回答者の 3 人に 1 人が生活費や学費で悩み，「貯金がもう底をつきそうで死にそう」との声も寄せられた．連絡先不明など，調査の案内を届けられなかった対象者が全体の 3 分の 2 を占め，その人たちも含めると状況はさらに厳しいとみられる（厚生労働省，2021 年 4 月 30 日）．施設や里親など社会的養護を経験した若者は自立後も親からの生活費や住居の支援が乏しく，生活が不安定になると指摘されている（永江・川村・星美・本田・北島・岩瀬・小沢・花田，2019）．

公的機関による里親支援として児童相談所に委託直後の里親が定期的に集まる「里親サロン」は，児童相談所にとっては親子関係が把握でき，支援がしやすくなった一方で，里親にとっても①委託直後の同じ状況にある他の里親たちの存在や先輩里親からの体験談が里親に養育する力を与えている，②毎月会える場があることで，里親同士の継続的なネットワークができ「里親サロン」を卒業しても相互援助的資源となりうることが示されている（森，2005）．このように「里親サロン」における有効性として里親同士のピアサポート的な関わりが大きな資源となっていることが指摘されている（羽柴，2008）．ピアサポートとは「ある人が同じような苦しみを持っていると思う人を支える行為，あるいは，そのように思う人同士による支え合いの相互行為」（伊藤，2013）と定義される．ピアサポートへの関心の高まりの中で，従来の専門的援助だけでは足りない部分があり，その部分にピアサポートの力を活かすことができないか（伊藤，2013）という問題意識が基盤にある．そこで本研究では，以上のような背景から「里親サロン」を卒業した里親たちがこれまでの里子の子育て経験を生かして支援しようと設立された「埼玉里母の会」が里親支援をしている活動内容をピアサポートの視点から検討し，その成果と課題を明らかにしたいと考えている．

第 1 章　日本における里親支援

里親支援政策が拡充される前は里親支援の担い手は各自治体での里親会であり，児童相談所とともに里親支援活動を担っていた．その後政策主体は，里親会が行っていた支援活動を追うかたちで制度化してゆき，1973 年の「里親促進事業」の普及啓発や委託促進といった委託前支援にはじまり，1987 年改正での制度化とともに里親研修が追加され，2000 年代には 相互援助や訪問による相談援助などの委託後支援へと拡がった（二村，2020）．

児童福祉司・里親の養育支援に対する意識とその課題について，戦後の里親制度発足時から指導というかたちで実質的に児童福祉司によって担われてきた里親支援とは「子どもや里親，実親の状況をリアルタイムで把握し，当事者を含む関係者全員の意見を聞いて，情報を共有しながら，支援の方向性の合意形成を図ること．そして，ケース全体を見ながら，措置不調時などにおける里親と協議したうえでの『一時保護』その他の専門的な支援など，必要時の適時介入，社会資源の調整など，子どもの自立や実親との再統合を見据えたコーディネーターとしての役割を担うこと」（音山，2019）であるという．近年里親支援の強化のために創設された里親支援担当職員からは，公共性の高い機関で働く人の認知度や里親開拓に関して市町村の意識が低いことも指摘されている（井上・笹倉，2918）．里親養育の実態としては，要保護児童の中に障がいのある児童や被虐待児が増加し，その抱える問題が複雑になっていることから，里親にはより専門的な知識が必要となってきた．そのため養育に不安を抱えている里親もおり，今後里親 に対して手厚い支援体制を構築することが求められていることが示されている．以上のことからも里親養育には里親支援が必須であることが多くの研究からも提言されている（森本・野澤，2012，安富・松山，2018，佐藤・松澤，2017，佐々木，2020，）．

第 1 節　重層的な里親支援の必要性

里親支援の必要性から里親支援機関（児童相談所・里親会・民間支援機関・里子の出身施設）に対して多くの里親が，特に民間支援機関への高い相談ニーズを有していることが明らかになるとと

もに，ニーズに応じて，児童相談所，里親会，民間支援機関，里子の出身施設等の里親支援機関を使い分けている（伊藤，2016）現状がある．そして里親のニーズを研修内容に組み込み，里親の意見が反映される環境を整え，相談できる窓口を複数設けるなどして里親には重層的な幅広い支援が必要（佐藤・松澤，2017）と指摘される．医療機関側の視点から里子の問題の常態化と日常の里親養育における扱いにくい事柄の悪循環が認められ，里親養育の危機となり，里子の心身の問題や里親養育不調，その回避に至る過程での医療機関における里子・里親支援のあり方についての提言もなされている（引土，柳楽，前川，辻井，若松，水木，奥山，2019）．支援の際に里親の満足度に影響を与えていた養育支援は「里親養育をささえるつながりづくり支援」と「委託前支援」が貢献していた（野口・高橋・姜・石田・千賀・伊藤，2019）という．また，自治体の取り組みとして里親委託率向上や養育不調予防に資する要素として静岡市の里親家庭への支援枠組みは静岡市独自の地域状況から形作られ，市児相と支援センターの協力関係を基盤に展開される多様なソーシャルワーク支援と里親リクルートおよびマッチングが，里親等委託率向上と養育不調予防に資する要素になっている（相原，2016）という成果もみられる．児相と支援センターの協力関係を基盤に「里親養育をささえるつながりづくり支援」の重要性があげられている．

第２節　里親支援におけるピアサポート的支援の必要性

里子の養育の難しさや支援，情報不足が指摘されている中で，養育する里親にとって情緒的疲弊の高低に最も影響を与えた項目は，児童相談所の「気持ちの通じ合う人」であり，児童相談所は里親制度における役割が大きい（奈良，阿部，鈴木，2011）という結果からも，児童相談所のみならず養育支援には子どもの課題を乗り越えるためには「気持ちの通じ合う人」を求めていることがわかる．一方現実的には公的機関からの支援の行き届かなさへの指摘も少なくない．子どもを育てる里親としては「気持ちが通じる人」の存在が重要で，その中でも同じ状況で経験をしている人からの先輩里親などのピアサポートに助けられたということもよく聞かれる（森，2020）．里親支援の先駆的取り組みとして NPO で認められたアン基金プロジェクト（平成 15 年 12 月 24 日成立）の活動があげられる．わが国で初めて里子や里子 OB に対する支援活動，里親勉強会などいろいろな自助業績の実践が結実したものである．アン基金プロジェクトは，ソーシャルワークの目的の一つであるエンパーワーメントを実現している組織といえる．自分達の問題解決能力を高めると同時に，里親制度の充実に向けて努力し団体としてのアドボカシー能力を増していった（1）．一方公的機関である児童相談所における里親支援の一方法として委託直後の里親が集まる「里親サロン」の有効性について①里親の孤立感を解消し，相互援助的な関係を築きやすい，②里親の当面している困難や課題を的確に把握し，対処することができる，③経験豊かな里親からの体験談から多くのことを学べる，④里子の状態を把握することができることが児童相談所が里親援助する上でメリットとなる（羽柴，2008）点が指摘されている．

以上から里親支援の必要性は高いものの，里親自身が求める「気持ちが通じ合う人」は児童相談所などの専門的援助職のみならず，様々な経験を乗り越えた同じ里親同士の支援の力が大きいということも分かってきた．里親によるピアサポートの先駆けとしてアン基金プロジェクトが経済的な支援を含め行ってきているが，「埼玉里母の会」は同じ自治体の中での里母による支援団体はわが国でははじめての試みである．そこで本研究では同じ里親として子どもを育てる経験者によるピアサポートの視点からの里親支援のあり方について検討することは意義があると考える．

第２章　本研究の目的と方法

第１節　研究の目的

わが国の社会的養護において，その多くを占めていた施設養護から家庭養護に向けて大きく転換するようになってきた．その一方家庭養護の大きな柱である里親養育に対しての支援の不足は現場

からも，また多くの研究からも指摘されている．そこで「里親の願い子どもの幸せ」というキャッチフレーズを掲げ里親養育支援に寄与する団体として「埼玉里母の会」を立ち上げこれまで実践してきた活動の効果と今後の課題をピアサポートの視点から明らかにすることを目的とする．

第２節　研究の方法

2015 年 12 月に「埼玉里母の会」を設立した当初からの会員である筆者は，定期的に送られるニュースレター（2）と総会への参加により得られた総会資料（3）など提供された関連資料を収集して文献調査を行なった．その上で「埼玉里母の会」の会長，副会長へのインタビュー調査を実施した．文献調査の分析枠組みとして Cowie& Wallance（2000）のピアサポートシステムを援用する．ピアサポートシステムには感情的（情動的）と情報的の 2 つのサポートがあげられる．感情的サポートは，気にかけられているとか認められているといった言葉で表現できる肯定的な感情がもてるようにするサポートで，①力になること（befriending），②仲介（mediation）・対立の解決（conflict resolution），③カウンセリングに基づく介入（councelling–based interevention）の 3 つに分類される．②仲介・対立の解決は不調により里子を施設に返したことで里親が抱えてしまう心の葛藤を意味することから本研究では葛藤の解決とする．情報的サポートとは病や問題を抱える人が欲しいと思う情報についてアドバイスが受けられるサポートを意味し，①ピアによる教え合い（peer tutoring），②仲間間での教育（peer education），③経験を積んだ仲間による助言（peer mentoring）の 3 つがあげられる．

本研究においては参加者の個別な情報については扱わないことを説明し「埼玉里母の会」の理事らに了解を得た上で，会長 1 名，副会長 2 名の計 3 名から現在の支援のあり方や成果と今後の課題についてインタビュー調査を実施した．発言の記述は ,KJ 法（川喜多，1997）に準じて分類した．各小項目の最後に付けた（A1）などの番号は，発言の通し番号である．手順としては，①設問に対しての発言で 1 つの意味のある文章を，1 単位として抽出した．また，1 文に複数の内容が含まれる場合は，分けて別のカテゴリーとした結果，活動の成果では 8 のカテゴリー，課題では 4 のカテゴリーを得た．②それらの発言に，小項目名を付けた．類似したエピソードを合わせ 28 の小項目を得た．③似ている観点からの小項目の記述をまとめ，カテゴリー化を行った．④小項目間で関連すると思われるものに，カテゴリー化を行い，成果では 6, 課題では 2 つの中項目に分類された．⑤さらにカテゴリー化を繰り返し行い，成果の内容は2つ, 課題の内容は1つの大項目に大別できた．

第３章　結果

第１節　文献調査

文献から抽出した活動を Cowie& Wallance（2000）のピアサポートシステムを援用し，ピアサポートの視点からの支援として有効に機能していくための要因として，情動的サポート①力になること，②葛藤の解決，③カウンセリングに基づく介入と，情報的サポート①ピアによる教え合い，②仲間間での教育，③経験を積んだ仲間による助言，という分類に従い，各活動等で行われていたピアサポートの種類を太字で表し分類した．各年度における活動を一覧表にまとめたものが表 1 である．

1.「埼玉里母の会」の概要

「埼玉里母の会」設立の経過としては，2015 年 1 月に全国里親会の里母の会が主催した第 1 回女性リーダーセミナーに埼玉県から 4 名の里母が参加し，2015 年第 1 回の会合で「埼玉里母の会」と名付けられた．2016 年からは 2 ヶ月に一回会合を持って会の体制や規約などを話し合った．当時まだ里子は里親の元から自立する際の支援体制は十分に確立していない状況にあった．自立する子どもに伴走していけるような支援体制を作ることで，社会へ自立後つまずいた時などの相談体制に繋がることができるよう，また埼玉県に住んでいる里親子と養子縁組をした親子，未委託の里親に自分たちの経験を伝えてより良い親子関係を作っていってほしいという願いからキャッチフ

レーズ「母の願い，子どもの幸せ」を掲げ活動を始めた．2017 年度からは埼玉県シラコバト長寿社会福祉基金の助成事業で実施し，2020 年度からはパルシステム埼玉市民活動支援金の助成金を得て活動している．

2. 実践活動・研修内容

2017 年度から 2020 年度までの「埼玉里母の会」の活動内容を以下にあげ，それらの活動を感情的サポートと情報的サポートの分析枠組みで整理し表 1 にまとめた．感情的サポートと情報的サポートに該当する部分を太字で示した．

(1)「里親研修会」

2017 年度は，大阪の西成区にある「子どもの里」の映画の上映し，その後総会を行った．2018 年度は「里親家庭で考える性教育」2019 年度は「鮫島ボンディングクリニックでの養子縁組の取り組み」2020 年度は「大人になった当事者の声を聞く」など**仲間間で教育しあう情報的サポート**が行われ，その後には「おしゃべりサロン」を続けて行い気軽に話してもらえる場を設けている．

(2) アフターケア事業「さとっこサロン」

2017 年度から 2019 年度にかけて里子のアフターケアや里子からの自立支援の相談，ユース（中・高・大）の自立に向けた情報交流会の場「さとっこサロン」を行ってきた．本活動は里子の今後に向けての**情報的サポートとして適切な情報や経験を積んだ仲間による助言を行ってきた．**具体的な内容としては，里子の進路選択の指導と，奨学金申請の際に必須の志望理由と作文の指導を行った．借りている場所「クローバーハウス」は児童養護施設退所児童等を対象とした居場所として埼玉県社会福祉会が運営している．自立にあたり困った時に相談でき，くつろげる居場所として利用もできるので，この活動が里子や元里子に存在を知ってもらう機会となり**「力になる」感情的サポートも内包した活動**となっている．里子たちの集まりが減少したため一旦終了となったが，里子の集う居場所は県内にはないので，2020 年度以降は違う形で開催する予定である．

(3)「特別養子縁組のためのサロン」

2018 年度より特別養子縁組後の「真実告知」や養親の悩みなど**力になるような感情的サポート**や**先輩里親の教え合いによる情報的サポート**の場として開催されている．子どもの年齢により抱える問題が異なるため年齢でグループ分けしてサロン形式で懇談をする．特別養子縁組サロンは，年 4 回を毎回異なる会場で開催したことにより，2018 年度は 49 人，2019 年度は 49 人，2020 年度は 33 人が参加している．管轄されていた児童相談所の垣根がなく，また民間から養子を迎え入れた養親の参加もあり現在もニーズが高く継続して実施している．

(4) 心のケアサロン

面会交流中や養育中の不調，里親養育の終了による委託解除など，子どもとの辛い別れを経験した会のメンバーが，心の整理や気持ちの切り替えに悩む里親の**対立した感情の葛藤の解決に向け**参加者に寄りそうサロンが必要であると考え，22018 年度から開催している．開始にあったって傷ついている里親に寄りそえるよう，スタッフも**カウンセリングに基づいて感情的サポート**ができるよう「傾聴研修」を 2 回行った．また離れてしまった子どもへの罪悪感を抱えている里親も少なくないため委託解除後施設に施設に措置された子どもの様子を聴くために，児童養護施設の里親支援専門相談員と懇談の機会も設けた．2018 年度 7 回のケアサロンでは参加人数延べ 73 人，2019 年度 5 回 29 人，2020 年度 5 回 29 人の参加者があった．現在もニーズが高く今後も継続して行う．

(5) 進学・就職のための制度説明会

2018 年度より進学・就職のための制度説明会を里親・里子に向け継続して実施し**仲間間で教育する情報的サポート**を行っている．子どもたちを支援するための各種制度について，県の養護担当者や里親支援専門相談員からの奨学金情報をしてもらったり，当事者の体験談なども行った．埼玉ではこのような説明会がないので奨学金申請などの情報提供の場としている．午後には「埼玉里母の会」のスタッフが個別相談を行い個別の質問に

対応している．

（6）交流中支援（2018 年度のみ）

2018 年に委託前後の里親で支援が必要な里親の自宅を会のメンバーが 2 名以上で訪問して子どもと関わり，里親からの話を聞き，求めに応じて**経験を積んだ仲間による助言による情報的サポート**を行った．子どもが生活している施設を訪問する交流中は子どもが懐かないことや「試し行動」などもあり悩む里親は少なくないため**力になる感情的サポート**が必要な里親の求めに応じて実施した．

（7）ベビーズホームプロジェクト（2017 年度のみ）

2017 年度に埼玉県でも新生児委託ができるファミリーホームを開設したいひとりの里親希望者がおり，「埼玉里母の会」がホームを立ち上げるまでを協力することになった．他のファミリーホーム等の訪問 4 回，児童相談所相談 2 回，受託家庭への支援 7 回同行訪問をして当該里親がベビーズホーム**設立の「力になる」感情的サポートと経験を積んだ先輩里親の助言による情報的サポート**をして「ニコニコファミリーホーム」の設立に協力した．その後ファミリーホームが開設されベビーズホームプロジェクトとしての「埼玉里母の会」のサポートは終了した．

（8）未委託スキルアップ支援事業

スタッフが「施設探検隊」を組んで，未委託里親，施設関係者，先輩里親で 3 つの乳児院と児童養護施設を訪問見学し，未委託里親のスキルアップにむけ**経験を積んだ仲間による助言による情報的サポート**を行った．県に報告をしたところ良い企画ということで予算を付けてもらい 2018 年度より県の埼玉県里親会の「しっかりサポート事業」に発展し，本会での活動は終了した．2017 年度は，①未委託里親 55 名②施設関係者 9 名③先輩里親 26 名が参加した．

3．調査・広報事業の内容

（1）「里親サロン」等調査

2017 年度県内の「里親サロン」の実施機関（児童相談所・児童養護施設・民間など）の実態を調査し，2018 年に「里親サロン」マップを作成した．以前より「里親サロン」についての問い合わせ等もあり，里親同士話し合いができるサロンを知りたいという情報のニーズがあった．里親が地域を超えてつながるような全県規模のサロンについての情報はなく，調査により里親サロンの実施の実態を把握することができた．それぞれ抱えている問題を里親サロンにて里親同士で共有できる**ピアによる教え合いと仲間間での教育という情報的サポート資源**となった．参加できるサロン一覧を作成し，開催場所，時期，活動内容やルールなどをまとめて広く参加できるように準備した．

（2）「生い立ちの授業アンケート」

2017 年度は会員の手弁当でアンケートの準備を行った．小学校で行われる「生い立ちの授業」が血縁の親子であればお腹にいたころや生まれたとき等当然わかっていることとして学校では授業で発表させることもあり，生まれる前や乳児の頃のことがわからずに親子になった里親と里子にとっては大きな悩みの種であったため**葛藤の解決に向け感情的サポート**をすることを目的に行った．学校現場で配慮してもらうため，まずはアンケート調査により実態を 2018 年度で取りまとめて全国里親会で報告した．その後アンケートの結果と所沢地区で作成した「里子・養子縁組した元里子の学校生活にあたってご配慮願いたいこと」というお願いのパンフレットを合わせて全県の教育委員会に提出したところ，教育委員会校区長より「社会的養護を受ける児童生徒への配慮について」という通知が各市町村教育委員会教育庁宛てに出されるところまで広がった．また，鹿児島大学の先生より「生い立ちを扱う授業についてのアンケート調査」結果の資料の依頼を受け，提供して将来教員になる学生に向けて「生い立ちを扱う授業」についての講義が行われ，様々な背景を持つ子どもたちがいることを理解した上で，家族を

扱う授業への配慮を考えたり，児童相談所とも連携を図ることが大切という考えに至った学生が多くいたという結果であった．

(3) 自立に向けてのアンケート調査

里子の自立支援に向けて有効な**情報的サポートである仲間間での教育**を提供するため，里子の意思が反映されているかどうかを検証するために行なった調査である．2017 年度から 2019 年度にかけて中学生と高校生の里子等にアンケート調査をすることを企画して協力依頼をし，アンケートの作成，郵送，回収した．2018 年度にはアンケートの集計・分析，印刷を行い，給付型奨学金などの国の支援制度ができたのでそれらも入れて 2019 年度にパンフレットを発行した．

(4) 広報紙等発行

2017 年度より毎年「ニュースレター」を発行し，**仲間間での教育の場**となるよう実際に行った活動について報告し，次回の活動についてもお知らせして**情報的サポート**をしている．2020 年には「里親啓発及び当会広報のためのイベント」を開催し，会員を募ってピアによる教え合いの情報的サポートの輪を広げていく予定であったがコロナ下の蔓延が治まらない状況にあり中止となった．

第２節　インタビュー調査

「埼玉里母の会」会長 A 氏，副会長 B 氏，C 氏にこれまでを振り返って活動の成果，課題について語ってもらった．発言者がわかるように発言箇所は A 氏は（A）B 氏（B），C 氏（C）とし発言の通し番号を付けた．「埼玉里母の会」の活動の効果と課題は表 2, 3 にまとめた．

1.「埼玉里母の会」の実践活動による効果

里母の会の方たちと全国大会で隣同士になったなど偶然が重なって知り会えた．そのような機運の中，タイミングよく里母の力を結集して立ち上げることができたと思う．里母でやりたい人が活躍できるようになってきた（A1）．埼玉は地方と比べると中央に近いので勉強もしやすく人材が豊富である（C1）．埼玉県は県の里親会と政令指定都市さいたま市となり里親会が分かれたことで同じ県内の里親会との交流が途切れていた．しかし，「埼玉里母の会」の設立で全県の里親が一緒に活動できるようになり，活動を通して交流することによってメリットが増えたと感じる（B1）．それぞれの里母の多岐にわたる養育経験から必要と思った活動を立ち上げ，里母の得意な分野で力を発揮してもらって協力して行った（A2）．

皆で話し合って企画し次から次へとできたことは自信になったし楽しくもあった（A3）．県の里親会とさいたま市の里親会が垣根を超えて一緒に活動でき情報共有できたことが多くあった(B2)．活動を広域な地域の里親と合同で行うことで若い里親とも話す機会がありパイプをつなぐことができた意義はある（C2）．里母たちの基本的な思いは，「どうしたらよいか相談したい」「こんな助けがあったら」などの思い（C3）があり，自分で調べたり行動するが追いついていけないこともあった．これから委託された人たちも同じ悩みがあると思うので何か打破することができればという里親の当事者性から声をあげた（A4）．

行政のあり方に不満をいっても仕方がないので，自分たちで調べてやりたいことをしていくことが自分たちに戻ることである（A5）．里母の会も行政とうまくやらないと回っていかない．ピアサポート活動をすることでエネルギーをもらえる，動かないと変わらないので，やって良かったと思えるようにしたい（A6）．

里親を長くしてきて年齢的にも次の子どもの委託は考えられなくなったが，ここまでこれたのは子ども達のおかげであり，児童相談所やサロンや里親仲間のお蔭だと思っている（A7）．大変な時はみんなで話して生の声を聞くので元気になる．今自分ができることがあるのではないかと思った（A8）．ひとりではできないことも仲間と共に得意な力を合わせて行えば出来ることがある(A9)．はじめは里母が集まって何をするのかと思っていた人たちも年数を経て活動を認めてもらえるようになってきた（A10）．

全県の方たちと一緒にやることで情報を共有することができ，刺激も多く経験を積むことで里親仲間の交流の活性化に繋がっている（B3）．若い

表１　各年度における活動一覧

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	サポートの種類
研修・実践活動	(1) 里親研修事業	里親研修事業 研修	里親研修事業 研修	里親研修事業 研修	情報的サポート ②仲間間による教育
	(2) アフターケア事業 「さとっこサロン」	さとっこサロン	さとっこサロン		感情的サポート ①力になる 情報的サポート ①ピアによる教え合い
		(3) 特別養子縁組の ためのサロン	特別養子縁組の ためのサロン	特別養子縁組の ためのサロン	感情的サポート ①力になる 情報的サポート ①ピアによる教え合い
		(4) 心のケアサロン	心のケアサロン	心のケアサロン	感情的サポート ②葛藤の解決 ③カウンセリングに 基づく介入 情報的サポート ③経験を積んだ 仲間による助言
		(5) 自立支援事業 / 進学・就職の ための制度説明会	進学・就職の ための 制度説明会	進学・就職の ための 制度説明会	情報的サポート ②仲間間で教育
		(6) 交流中支援			情報的サポート ③経験を積んだ 仲間による助言
	(7) ベビーズホーム プロジェクト				感情的サポート ①力になる 情報的サポート ①ピアによる教え合い
	(8) 未委託スキルアップ 支援事業	⇒県の事業へ移行			情報的サポート ①経験を積んだ 仲間による助言
調査・広報事業	(1) 里親サロン等調査				情報的サポート ①ピアによる教え合い ②仲間間で教育
		(2) 生い立ちの授業の アンケート 調査・発表			感情的サポート ①力になる 情報的サポート ②仲間間で教育
	(3) 自立支援に向けての アンケート調査	自立支援に向けての アンケートまとめ	自立支援に向けて アンケート 調査発表		情報的サポート ②仲間間で教育
	(4) 広報誌等発行事業 ニュースレター 創刊号	広報誌等発行事業 ニュースレター 第２号	広報誌等発行事業 ニュースレター 第３号	広報誌等発行事業 ニュースレター 第４号	情報的サポート ②仲間間で教育
				里親啓発及び 当会広報のための イベント	コロナ禍の影響で中止

里親や深い思いのある方たちが増えてきた(C5). これらのことが子どもに返っていくといいと思うと原動力になる（C6）. 里母の会ではこうしたいということをすぐに行動に移して実現していき, 行政でやることはやるという流れを作っていくことは大事である（C7）. 今後も全県の里親が繋がる仕組み（C8）を作りたい.

2. 今後の課題

「心のケアサロン」の後に「おしゃべりサロン」を行っているが言いっぱなしで専門家の意見がない（C9）. 子どもの養育のことで困っている, 悩んでいる人がいたらすぐに対応してもらえる仕組みがあるとよい（C10）. 子どもに発達の課題を持っている人など, 年齢が上がるにつれ養育が困難になってくることがある. 里親同士の話合いだけでなく, そこには心理なり専門家の視点が必要である. 本来委託中の子どものことは児童相談所が担う仕事であるが, なかなか敷居が高いと感じる里親や養親も気軽に専門家につなげられるようなサポートがあるとよい（C11）. 里子や養子縁組をした子どもたちで, 幼少の頃に養育の困難さを発達の視点からケアされず大きくなって困っている里親, 養親は少なくない. 発達障害の可能性があるグレーゾーンの子どもの養育で困っていると言っても支援してもらえずケアされなかった子どもたちがその後成長してからが困難（筆者注：子どもが問題ととらえられそう）になっている（C12）.

里親, 児童養護施設での情報や心理的サポートなどサービスの格差が大きすぎる. もう少し里親養育に対するサービスの待遇が良くなると良い（C13）. 里親は子どもの委託に際しての書類, 子どもの背景も十分に教えてもらえない. 自立支援計画書の書類ももらえないことが多い. 子どもや里親側に立ったファミリーソーシャルワーカーが必要である. 里親は置き去りにされている（C14）. 委託解除後のアフターケアの予算にも格差がある. 児童養護施設と同じラインに立って里親家庭にいた子どもにも解除後のケアをしてほしい（C15）.

第４章　考察

本研究は, 里親が自ら支援に寄与する団体として「埼玉里母の会」を立ち上げたピアサポートの視点からの支援の成果と課題を明らかにすることを目的として行った.

第１節　「埼玉里母の会」の実践活動の成果

(1) 情報的サポートによる情報交換と提供の場としての活動

文献調査の結果,「埼玉里母の会」の活動のすべてで情報的サポートが行われていた. ①ピアによる教え合いにより「さとっこサロン」「特別養子縁組のためのサロン」等里子や養子縁組親子などの自立や養育などをサポートしていた. 調査事業においても「里親サロン等調査」, ②仲間による教育では,「里親研修事業」「自立支援事業」里親, 里子の自立に向けて教育の機会を作り, ③経験を積んだ仲間による助言では,「心のケアサロン」「未委託スキルアップ支援事業」で先輩里親の経験からの助言が行われていた.

里親養育についての情報の不足と格差が指摘されたように, 池田（2020）は, 社会的養護児童を家庭で養育する里親の地域における困りごとについて母子手帳に焦点を当てて里親支援のあり方を検討している. 里親は里子の健やかな養育のため養育前の実親の健康医療情報が不可欠であり, 里親が属する市区町村の担当者は里親のニーズに対応した母子手帳や情報の提供を行うことが必要である. 里子の養育の難しさや支援不足や情報不足のある中で, 養育する里親にとって情緒的疲弊の高低に最も影響を与えている. 以上からも「埼玉里母の会」の活動が里子を養育に必要な情報や自立に向けての情報を提供する場としての効果が機能していたことが推察された. また,「埼玉里母の会」スタッフからは県の里親会と政令指定都市の市の里親会の情報の共有など里親会が強化されてきたことが示されていた.

(2) 感情的サポートによる共感的理解からの心に寄りそった支援

「さとっこサロン」に集まった里子たちの進学，就職などの相談にのることで自立に向け動き出すために里子の心を支え前に進むための後押しする力となっていたことが推測される.「ベビーズホームプロジェクト」では里親ひとりでは立ち上げることが困難であったホームの設立までを一緒に行動して支え実現する力となったこと，「生い立ちの授業の調査」では里親子がそれぞれ悩んでいたことが調査という形で皆の意見を吸い上げ一人ではないことがわかり力を得ることができたことが推察される.「心のケアサロン」に集まる里親にとって養育途中の措置解除では，里子とともに里親も心に大きな痛手を負う．不調による委託解除後などは里親がひとりで思い悩むケースが多く，相談する場所がないことで苦悩した経験をもつ里母の思いから始まった「心のケアサロン」である．ピアカウンセリングは，「当事者集団の問題解決能力の活性化により個々人が直面する問題の解決をめざす草の根運動」（岡原・立岩，1990）であり，ピアサポートの場にはエンパワメント効果があること（杉本，2020）が指摘されている．ここでの葛藤の解決に向けての感情的サポートは経験した里親による共感的理解から発したサポートであり，ピアカウンセリングに近い関わりによって心のケアがなされていることが途絶えることがない参加者の数からも有効性が推測される．

「埼玉里母の会」の活動では情報的サポートをすることによって感情的なサポートも伴って見受けられ，それらによってエンパワメントの相乗効果が得られていたと思われる．

(3) 里親当事者が必要であった支援の発展的成果

「埼玉里母の会」のスタッフの発言から支援者にもたらした成果として，里母が結集することで活躍の場が与えられ，そこで活動することが次世代の里親への支援へと還元されることが元気になるパワーの源であることが随所でみられた．それらが支援者としての収穫であり，里母としての自信にもつながると認識していた．同じ仲間と同じ後輩の仲間たちに対して活動することによって里

表２「埼玉里母の会」の活動の成果

大項目	中項目	小項目	成果についての発言	類似した発言
ピアサポート提供による成果	里親会の強化	県と市里親会の連携	市の里親会の力だけではできないことや整っていない所，困りごとも県内の里親と活動出来て引っ張ってもらえるのはメリット（B1）	(B2) (B3)
		次世代里母との連携	合同で行うことで若い里親とも話す機会がありパイプをつなぐことができた意義はある（C2）	(C4) (C6)
	次世代支援へと還元	ピアサポートによる支援	これらのことが子どもこれから委託された人たちも同じ悩みがあると思うので何か打破することができればという里親の当事者性から声をあげた（A4）	(A8) (C5) (C3)
		当事者の必要な支援の実現	里母の会ではこうしたいということをすぐに変えて実現していき，行政でやることはやるという流れを作っていくことは大事である（C6）	(A 9) (A10)
支援者にもたらした成果	結集した里母の力	里母の活躍の場	理事会も半数くらい女性になった．そのような機運の中，（中略）里母でやりたい人が活躍できるようになってきた（A1）	(A2) (A10)
		豊富な人材	地方と比べると中央に近いので勉強もしやすく人材が豊富（C1）	(A9)
	エンパワメントの促進	支援者の収穫	ピアサポート活動をすることでエネルギーをもらえる（A6）	(A5) (A8) (C7)
		里母としての自信	皆で話し合って企画し次から次へとできたことは自信になったし楽しくもあった（A3）	(A7) (A9)

母自身がエンパワメントされていることが示唆されている．また，「未委託スキルアップ支援事業」のように里親委託にはまだ委託されない里親が少なくないこと，待機中の不安など大きな課題となっている．せっかく里親になろうとしている人たちに向けて，乳児院や児童養護施設などを見学したり，まだ子どもを委託されていない里親が先輩里親から体験談を聞いたりすることによって待機中でも里親養育に向けての準備ができるように支援事業を起こしたことの有効性が評価され，埼玉県里親会の「しっかりサポート事業」に発展的に引き継がれたという成果があった．2016 年に日本全国の有志の自治体および全国里親会を含む民間団体によって「子どもの家庭養育 進官民協議会」が設立され，里親会は今後も自治体や他の民間団体と連携して里親支援全般の改善のために活動していくものとされた．多くの里親たちが長年抱えてきた悩みの改善に向けて行ってきたことが認められたことが示された．

第２節 「埼玉里母の会」の実践から見えてきた里親支援の課題

(1) 心理や医療機関などの専門家との連携の仕組みづくり

「自立支援事業」では「埼玉里母の会」が専門家を呼んで話をしてもらったり情報提供してもらったりと働きかけている．また「心のケアサロン」のあとの「おしゃべりサロン」では，里母らの共感的理解をもって話を聞いているが，会のスタッフは里母同士の話し合いで言いっぱなしにしないで，そこに臨床心理士や認定心理士などの専門家の視点につなげるようにしたいと考えていた．ピアサポートによりエンパワメントされるという有効性は認められてきている（杉本，2020）おり，開始にあったって傷ついている里親に寄りそえるよう，スタッフもカウンセリングに基づいて感情的サポートができるよう「傾聴研修」を 2 回行っているが，その後についての責任を負うことはできない．心理の専門家によるカウンセリングの必要性が求められている．ピアカウンセリングとして対応できるようなスタッフの養成も今後の課題として推察される．障害やその傾向は成長してからも尾を引くことが多々あるという．このことを踏まえても，医療機関側の視点から里子の問題の常態化と日常の里親養育における扱いにくい事柄から里子の心身の問題や里親養育不調，その回避に至る過程での医療機関における里子・里親支援の連携（引土ら，2019）できる仕組みが求められていた．

(2) 里親委託解除後も元里子の継続的支援

里親養育支援体制をしっかり作り上げなければ，里親委託が解除されるなどの事態が頻繁に起こることが予想され，制度自体の維持が難しくなることが危惧（野口・高橋，2019）されている．虐待や貧困などにより児童養護施設や里親家庭で育った若者は，施設などを離れた後，3 人に 1 人が生活費や学費で悩んでいるという実態が公表され，施設や里親など社会的養護を経験した若者は

表３ 「埼玉里母の会」の活動の課題

大項目	中項目	小項目	今後の課題についての発言	類似した発言
里親支援質の向上の必要性	専門家連携の仕組みづくり	専門家の視点の必要性	里親同士の話合いだけでなく，そこに心理なり専門家の視点が必要である（C11）	(C9)
		相談援助の仕組み	おかしいと思った時にすぐに対応してもらえる仕組みがあるとよい（C10）	(C8)
	里親養育のサービス改善	情報・サービスの格差	里親，児童養護施設での情報やサービスの格差（心理的サポートなど）が大きすぎる．もう少し里親養育の待遇が良くなると良い（C13）	
		里子への支援の必要性	児童養護施設と同じラインに立って里親家庭にいた子どもにも解除後のケアをしてほしい（C15）.	(C12) (C14)

自立後も親からの生活費や住居の支援が乏しく，生活が不安定になると指摘されている．今回の活動からも進学などの向けての奨学金申請や金銭的な助成金のことなど情報的なサポートの必要性が高いことが明らかになった．しかし単に情報的なサポートを提供するだけではなく，里親や里子の気持ちに寄りそって共感的理解をもった感情的サポートが伴って提供されることにより，さらに効果を高めたと考えられる．

さいごに

本研究は，里親が自ら里親養育支援に寄与するする団体として設立した「埼玉里母の会」の実践活動の効果と今後の課題をピアサポートの視点から明らかにすることを目的として行った．「埼玉里母の会」の活動の成果として，（1）情報交換と提供の場としての活動，（2）感情的サポートによる心に寄りそった支援，（3）里親当事者の必要な支援の発展的成果が見いだされた．「埼玉里母の会」の活動では情報的サポートをすることによって感情的なサポートも伴って見受けられ，それらによってエンパワメントの相乗効果が得られていたと思われる．また里母らの発言から「埼玉里母の会」が抱える課題として，里親支援の質の向上の必要性が語られた．具体的には（1）専門家との連携の仕組みづくり（2）里子の生涯にわたるサービスの改善が求められていることである．これらも「埼玉里母の会」のキャッチフレーズ「里母の願い，子どもの幸せ」を掲げ里親が長年思い続けてきた願いである．現実には「埼玉里母の会」の取り組み以外にこれらのサポートしている場がないことから，公的支援のもと里親支援の現場では情報的と感情的双方のサポートを心掛けて支援を厚くして取り組むことも喫緊の課題として示唆されたと考える．

全国的な実施がはじまるフォスタリング機関制度は，基本的にひとつの機関 が里親業務を包括的に担うことになるため，支援全般 における里親会の位置づけが変化していくものと予想している（二村，2020）．「埼玉里母の会」,「里親会」とフォスタリング機関とがどのような連携をして「チーム養育」していけるかについての検討は今後の課題としたい．

引用文献

相原眞人（2016）. 静岡市における里親家庭への支援枠組みと静岡市里親家庭支援センターの活動に見る里親家庭へのソーシャルワーク , 社会福祉学 57（3）,78-90.

Cowie,H.,& Wallance,P.（2000 ）. Peer Support, SAGA Publication of London.
（松田文子・日下部典子（監訳）（2009）．ピア・サポート―傍観者から参加者へ―　大学教育出版）

二村玲衣（2020）. 里親支援政策における里親会の活用に関する一考察―里親支援における里親育成活動からチーム養育の一員へ―, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）67（1）,109-117.

羽柴継之助（2008）. 児童相談所における里親支援の一方法：いわゆる里親サロンの有効性について , 川口短大紀要こども学科編 22,169-180.

引土 達雄 , 柳楽 明子 , 前川 暁子 , 辻井 弘美 , 若松 亜希子 , 水木 理恵 , 奥山 眞紀子（2019）. 里親養育不調の危機とその回避のプロセス―医療機関における里子・里親支援のあり方の検討の試み―　59（3）,253-264.

池田佐知子（2020）. 里子の母子健康手帳に関する里親の困りごとについての課題検討 ,　西九州大学看護学部紀要 1,13-20.

井上寿美 , 笹倉千佳弘（2018）. 児童養護施設における里親支援の実態―特徴―児童養護施設里親支援職員語りをとおして―, 大阪大谷大学教育学部幼児教育実践研究センター紀要 8,1-24.

伊藤嘉余子（2016）. 里親の支援ニーズと里親支援機関の役割　社会福祉学 57（1）,30-41.

伊藤智樹編著（2013）ピア・サポートの社会学―ALS，認知症介護，依存症，自死遺児，犯罪被害者の物語を聴く―，晃洋書房.

川喜多二郎（1997）続発想法，中央公論 .

森和子（2005）. Q＆A 里親養育を知るための基礎知識　庄司順一編著　198-199，明石書店.

森和子（2020）．養子縁組による―血縁によらない親子関係形成過程　名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士論文.

森本美絵 , 野澤正子（2012）. ある委託児童（里子）の成長過程の具体像と里親教育への社会的支援の在り方―継続的なインタビューによる里母の語りをとおして―, 京都橘大学研究紀要 38, 77-99.
永江誠治 , 川村奈美子 , 星美和子 , 本田純久 , 北島健吾 , 岩瀬信夫 , 小沢寛樹 , 花田裕子（2019）. 里親が感じている虐待被害者の自立における課題と必要な支援―里親・ファミリーホームを対象とした全国調査より―, 保健学研究 32,43-53.
奈良 隆正，阿部 好恵 , 鈴木 幸雄（2011）. 里親のソーシャルサポートと情緒的疲弊に関する実証的研究 48, 47-54.
野口啓示 , 高橋順一 , 姜民護 , 石田賀奈子 , 千賀則史 , 伊藤嘉余子（2019）. 里親養育支援の実態とその支援が里親の里親養育支援に対する満足度に与える影響 , 社会福祉学 60（3）,28-38.
岡原正幸，立岩信也（1990）自立の技法　安積純子，岡原正幸，尾中文哉，立岩信也，1990=2012 生の技法〔第 3 版〕―家と施設を出て暮らす障害者の社会学，生活書院.
音山裕宜（2019）．里親の養育支援に対する意識とその課題，社会福祉学 60-3, 76-89.
佐々木大樹（2020）. 里親家庭支援の現状と課題 , 京都大学大学院教育学研究科紀要 66,50-149.
佐藤みゆき , 松澤佳奈（2017）.S 市における重層的里親支援：養育里親へのインタビュー調査から―, 名寄市立社会福祉学科研究紀要 6,65-79.
杉本隆（2020）．ピア・サポートにおけるエンパワメント効果―「阪喉会」の指導員を事例として―, 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要 49, 105-123.
安富七星 , 松山郁夫（2018）. 養育里親における子育て支援に対する課題 , 佐賀大学教育実践研究第 37,19-26.

参考資料

（1）アン基金プロジェクトホームページ http://ankikin.la.coocan.jp/framepage1.htm（2021 年 6 月 22 日現在）
（2）ニュースレター
「埼玉里母の会ニュースレター」創刊号　2018 年 2 月 20 日発行
「埼玉里母の会ニュースレター」第 2 号　2019 年 2 月 28 日発行
「埼玉里母の会ニュースレター」第 3 号　2020 年 2 月 28 日発行
「埼玉里母の会ニュースレター」第 4 号　2021 年 2 月 28 日発行
（3）総会資料
「2018 年埼玉里母の会通常総会資料」2018 年 4 月 21 日
「2019 年埼玉里母の会通常総会資料」2019 年 5 月 10 日
「2020 年埼玉里母の会通常総会資料」2019 年 4 月 17 日
「2021 年埼玉里母の会通常総会資料」2021 年 4 月 オンラインで書面
（4）2018 年度事業実施報告書

（2021.9.21 受稿，2021.11.12 受理）